

2022年3月30日

鹿児島大学病院 脳神経外科 で
てんかんの手術を受けた患者さんへ
(生命科学・医学系研究に関する情報)

当院では、以下の生命科学・医学系研究を実施しております。生命科学・医学系研究とは、従来の臨床研究、疫学研究、ヒトゲノム・遺伝子解析研究を含み、人を対象として国民の健康の保持増進、患者さんの傷病からの回復、生活の質の向上に資する知識を得る等を目的とする研究のことです。この研究は、通常の診療で得られた過去の診療記録等をまとめる研究です。このような研究は、文部科学省・厚生労働省・経済産業省の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究について詳しくお知りになりたい時や、研究への参加を希望されない場合は下記の「お問い合わせ先」へご連絡ください。

【研究課題名】

てんかん原性獲得における組織炎症性反応の役割の解明

【研究の目的】

メチオニン PET という検査法は、主に脳腫瘍の診断に使われます。我々は、皮質形成異常を伴う難治性てんかん患者さんのてんかん原性領域（焦点）で、メチオニンの集積が亢進することを見出しました。メチオニンは細胞の新陳代謝に使われるため、腫瘍の様に細胞が増殖するわけではないはずのてんかん原性領域で、メチオニンが亢進することに疑問を感じて検討を重ね、脳の局所的な炎症反応を反映していると考えに至りました。本研究を通じて、てんかん原性領域に局所炎症反応が亢進していることを確認することで、メチオニン PET がてんかん診断に果たす役割について解明するとともに、炎症を抑制することがてんかん抑制につながる可能性について示すことができると考えて

います。

【研究の方法】

- a) 摘出組織を用いて、脳の炎症関連物質の測定を行います。
- b) メチオニン高集積領域・様式と次の課題との関連について検討します。
- ・ 組織型、特に dysmorphic neuron との関連
 - ・ 局所炎症との相関

脳腫瘍の手術で腫瘍摘出を受けた患者さんの組織を、対照として使用します。
本研究は藤元総合病院との共同研究を行います。

主要評価項目：てんかん原性領域での局所炎症反応亢進の確認

副次評価項目：メチオニンの集積と炎症細胞との相関
炎症反応の亢進と局所組織型との関連

本研究は藤元総合病院との共同研究を行います。

【研究期間】

承認日 ～ 2025年3月31日

【対象となる患者さん】

2000年1月1日から2025年2月28日までに、鹿児島大学病院脳神経外科で、てんかんあるいは脳腫瘍の治療のために手術を受けられた患者さん、及び、藤元総合病院でてんかんに対する手術を受けられた患者さんを対象にしています。

【試料や診療録（カルテ）から利用する情報】

手術で摘出した組織、診断病名、てんかんの焦点診断のため・術後経過の評価のために行った検査、術中写真を含めた手術記録、症状の経過

試料・情報の管理について責任を有する者の氏名：花谷亮典

【研究組織】

この研究が行われる研究機関と研究責任者は次に示すとおりです。

藤元総合病院 脳神経外科 大坪俊昭

【当院の研究責任者】

鹿児島大学病院 脳・神経センター 脳神経外科 准教授 花谷亮典

【本研究全体の研究代表者】

鹿児島大学病院 脳・神経センター 脳神経外科 准教授 花谷亮典

【個人情報の取り扱いについて】

研究で使用する診療情報は、患者さんの氏名や生年月日など、患者さんを直接特定できる個人情報を匿名化します。また、研究成果は学会や学術雑誌などで発表することがありますが、その際も患者さんを特定できる情報は使用しません。

【研究の資金源等、関係機関との関係について】

この研究は、公的研究費（学術研究助成基金助成金）並びに、鹿児島大学大学院医歯学総合研究科脳神経外科学分野の研究費（使途特定寄附金）で実施します。この研究は、研究者が独自に計画し、実施します。企業等の第三者機関からこの研究のための資金提供や労務提供は受けていませんので、利害の衝突は発生しません。

【参加を希望しない患者さんへ】

この研究に参加を希望されない場合は、下記問い合わせ先までご連絡ください。あなたに関するデータを削除します。ただし、学術発表などすでに公開された後のデータなど、患者さんまたはご家族からの撤回の内容に従った措置を講じることが困難となる場合があります。

【問い合わせ先】

〒890-8520

鹿児島市桜ヶ丘 8 丁目 35 番地 1 号

鹿児島大学病院 脳神経センター 脳神経外科

准教授 花谷亮典

電話 099-275-5375 FAX 099-265-4041